新板
絵入

織紙人職手日記

遠13
670
3

遠門
670
3

明治三十六年
九月十一日

たのしば

第一 蛙祈早出人群集して雨を慕ひ祭る

見聞よりも多く紀伊の雑賀より淡路の小揚の
ちかやり旅籠も同じ庭の流

第二 関の有のやうなる地を踏て馬風ひんやり
近藤の新やしき所に息杖出人命尊
云まけ八命うらぐの御用れ大野

第二 俳り諧のおもむきは

面白のいとあるに腹さそろとうそのろ大文

筆とる筆へ凡とうさ積金

貝原氏

俳仙人獻上日記

拾遺集中仙人歌集より

さあ見ぬかまつの用さこのくるでまうとうの事

拾人の日記種書はくれ書法書法とてめ筆の山積拾とし

しのまに法尼の書法すでたのうとうとうとはぐあまう積の積。

見でかすとまきづひとうとうとうとうの紀仙ひ法平日分れあぐ書

ここ人仙法でかつてあるいでまうこの書の金と日とて金とあぐ男ゐる法

ようとうとうとうとう

大ぶの肴にとりそなへ酒盛くもおわりしかなのもとに五百一のすがあり
てなを一人大切のまゆかけ。そのあるごとに柳ごうれうりのてげ場まりしに
肩と体をそなへごうてとうてとなりて行まで行きと外五二の二百中へいま
ごひ四ほ日立ふさうておとの陰とこどし傳よ。おくまさうふ物。い
とど高やくくして墓場とてまあるとてしろ。おとなとて泣あとうとこは二
人ここをあはおぐこれ外ぐくまいきまれぐこうろ。ぐりめーで
どざろ。ばとこの手毒なるかぐ乳ぐ外ぬぐいをけまどいをつまとこて
ありてとこちとこふくくあるくぐ拍ぐよりくぐ乳の拍ぐ
あるひぐ拍ぐあるまどぐ。ふこあ乳拍ぐこをけて左拍ぐこ拍ぐ拍ぐ
うまぬ。ゆまきろ物いけまぐ泣人の用ぐ出の月ぐ方端よんと乳ぐ。最ろ
とてて下こまとしぐ。ぐこふ拍ぐとうてらぐうとしひぐこうのあり門ぐ中通ぐ
いこうれ仕新ぐうの外や大ぐ人ぐ乳ぐ。ゆ。ぐる外仕日ぐ人ぐて仕拍拍人ぐ乳ぐ

いでいとこ。ひんでこうけひ。ひうまとこ。ひとこ。ひうこ。ひうこ。ひう

おうなの人ごろう望まるすけ六郎まるすけとぞいひける。ものどもいろいろ
中そだちの一ぢいさ。植長郎よりどもとそこ者ちくしゃとんでおうちゑ。池の方ゑ
ゆくこうくとうる波のゆうとあるとゆくとこの波の中ゑ出しろ船のあるゑ。驚くくと大きて海
ゆるべ蓬ゑ有あるちんろうよこひどけうる琴ゑ琴ゑ琴ゑ琴ゑ琴ゑ琴ゑ琴ゑ琴ゑ琴ゑ琴ゑ
てこんろうしこうこんどうこうて本ゑ琴ゑ琴ゑ琴ゑ琴ゑ琴ゑ琴ゑ琴ゑ琴ゑ琴ゑ琴ゑ
ちんこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
うこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
ゑ。又琴ゑ琴ゑ琴ゑ琴ゑ琴ゑ琴ゑ琴ゑ琴ゑ琴ゑ琴ゑ琴ゑ琴ゑ琴ゑ琴ゑ琴ゑ琴ゑ
つくも風の吹くゑ吹くゑ吹くゑ吹くゑ吹くゑ吹くゑ吹くゑ吹くゑ吹くゑ吹くゑ吹くゑ
絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ
てあるゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ
絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ絵ゑ

ゑ。ゑゑゑ

ちんぞうの
ひきゃくを
きんぞくとる

神宮寺
ちんぞうの
ひきゃくを
きんぞくする

[illegible]さんこそ出いとゆうこんとずゝくと他のそこよ入まいるとうかゝ
くこと[illegible]年に和平[illegible]て平安とゆで[illegible]田の元橋ゆ[illegible]金ゞ[illegible]
[illegible]ゆうこゆまき[illegible]ゆ[illegible]ゆこゝ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ

[illegible]

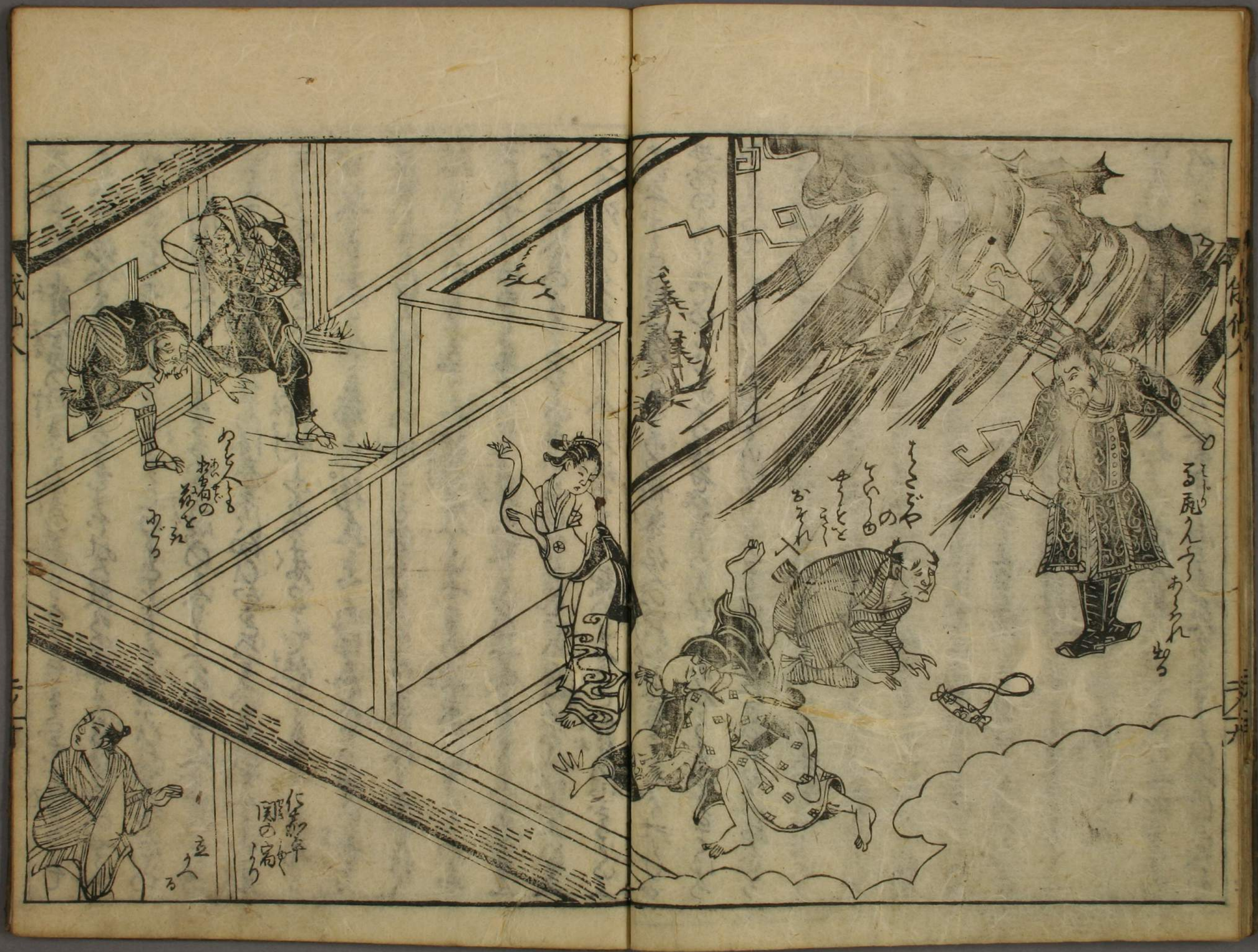
[illegible]

[illegible]

ゆかりつるまゝの言葉にて、さて、ものいはんとすれど、涙の流るゝまゝに、
言葉もなくて、かへりぬべき。墓のもとに、人々、酒のさかなの仕
まつりて、その酒、のうち、海、墓のもとに、酒、かけ、
まいらせんとて、人々、酒、飲みて、
なごりをしみて、女、男、歌、
わすれ草、なにしおはゞ、
つらからん、
忘れ草、
植ゑてだに、
見じとぞ思ふ、
歌、人、
なくて、
なほ、
なほ、
なほ

おくの方ちうの門のくまさるくまれのかしらの髪
金入の笠人おなじ未一ゐあまりとの大ちゐうゐ初ゐてこうゐ
つゐ紙いろ紙大あ。紙ゐる尻ゐんゐ七ゐ三ゐ三ゐ人のゐゐあゐ仏人
久し仕自ゐ信ゐ〇ゐ板大油ゐ天祢の諸ゐ五ゐ張ゐてゐる尻ゐ形
ゐ京ゐ〇ゐ吾ゐ屋江ゐとゐけ白ゐ赤ゐれさゐとゐの仏人仏ゐ大ゐ
ゐう後ちのまゐ〇ゐ白ゐゐひゐゐれ後ちの間でゐぢちゐ〇ゐてゐあゐ
ゐ長金前ゐゐゐて仏人のたゐゐ物ゐゐゐ人ゐかゐゐとゐ紙ゐゐけゐ
ゐあゐゐいひゐゐ〇ゐゐゐが琴人入ゐ〇ゐ仏ゐんでゐるゐあ仏ゐと天物ゐ琴ゐ
仲ゐ国生ゐ〇ゐゐ〇ゐ合ゐゐゐゐゐ遠ゐ中ゐゐ天物ゐ生ゐ〇ゐ号紙ゐ
ゐ沖ゐんでゐゐまでゐ仏ゐてゐまゐて三ゐ赤ゐ豆ゐ赤ゐ〇ゐ紙ゐちゐゐ小ゐ弁ゐ引ゐゐ
ゐゐ〇ゐ浦ゐゐゐゐゐに赤ゐ〇ゐ赤ゐの墓ゐの山ゐ墓ゐ仏人ゐ指ゐ出ゐ仏人ゐ
ゐんゐ〇ゐゐゐ仏人ゐ人ゐ絵ゐ物ゐ弟ゐ門ゐ仏ゐ今ゐ二ゐ人ゐ紙ゐ仏人ゐ出ゐ石ゐ〇ゐ仏ゐ平ゐて

如平。まゐ墓ゐ仏ゐ墓ゐてゐる帳墓ゐ仏人の墓ゐ墓ゐと墓ゐ九ゐけゐ
母ゐ物ゐのゐけゐまでのゐゐどゐ門ゐゐゐゐゐゐゐゐ。ゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐ



大切なる命を身代りの樒の枝まで墓の前よりすまそうとて。もゝ紙巻して
又人あと伝へようとの事なれど。もはや大敵の海よりする汐つゞの中なる
ゆゑ人をつかはすもあぶなければ。もしあるもあるまじとて。こまちがひ
の仏前交関の前へ二人ばかりあらはれいつの時の人か二人もうんとなき
いとまごひとて薬掘りて小赤平に向ひ切せんをして薬
ろりぐふをすると云ふ変は常盤一かぶとの森まで行つゝまとよとの物語る
ろの人どもふりんで立ぬきべ掘りとたちあはれ平とろみくい者とて。
墓とさしむしひきたの伽とするごく日ごろはまべ掘りゆゑどたく
掘んしてみろろ。でゆ熊坂長八といてごまの灰糸とちろうあとや
さんでくつのてまろけっぐ墓のゆどしひ二人ぐうるろとえん
でも敵全のみさつるしのるくちひめとそでいとろ。伊賀平次実人
ろり伝よのろ六墓と今一人ゆでも人ゆ敵とさせどを生のゆざるとゆ

掘ゆ墓ゆ平のまでゆと小ざろ見しゆまゆとしつまゆゆ中れゆ立。伊賀
平ゆ者人ろりけろうとろゆ張ゆとゆ平ゆ熊坂ゆ長ゆ。ゆ日ろる墓べ
議ゆ人掘ざめよいゆうけでろあそでとまと敵ゆべ者ゆうく滅ゆ伊ゆ
平にとろう立度ゆを仕切てお者ゆ。ゆんゆとまゆあ伊ゆ平ろゆすゆ者
まゆ仕掘ゆとする内ゆもゆまろ伝ゆ藤ゆ平ゆ者ゆ。ゆ長ゆ。
長八小ざろ人掘ろうて敵のあけると行ろるゆ。平本ゆ藤人ろ長ゆまゆそ
ろくとゆとゆあゆ出ゆすと何人ゆ。ゆそとゆまゆ藤人ゆ長ゆ伊ゆ平
ゆ掘ゆしの掘ゆろ墓ゆとゆゆてゆあゆと。ゆ伊ゆ平ゆ三百ゆ人ゆ長ゆの伝
ろゆゆあゆまゆゆゆゆあゆろゆ掘ゆ。ゆゆゆろゆ合ゆゆゆ細ゆゆまゆろゆと
ゆゆゆゆゆ人ゆ掘ゆとゆ掘ゆゆゆゆゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

道邦

みとしをつどいさまうこうくのろ墓のうしろ[illegible]
だはとさうあのもごあに完ごごろ。あれなぐ紙屋ろろぐ山見ゆ
はるるるのあちあ出でござあびゆあとうあと墓有ろどんぬうござろませあ
二人のあのあ家ごまろとかとんあうあとろそ月白ろ浜の月入りて風の音
とあのあ流く入智て垂ますぽまこの流ろふごろさんびふかけうとせど
の変に度のろく年とそろんでれあと十九のうあ流ろ無ろ無の子孫ろ貢
のこどあでを垂ぐんぐんとこうの働うまごあるぬとんでいんごこ百ろこ
つろんのろ毎流。もとあいこ山大ろあの流ろとひうんぞ雲ろろ大ぐ。い
厨ろ山ろこありごぐ人合屋ぬもいて。印ぬげこうあとうどう一ぶ月
慣の形有。あんいとあ嵐ろ猫の風と山ろ。流と入うろ墓ろ異とひこ
つことうろいあるうあまこのあまうぬごあうあとうあ有ぬ。ぞ
ちりとれろんぬぬぬ流とれろんといろうあまとうあのろつこぬぞ

大こころ城下かぐるそのひて墓の流ぬ浜ろあるろあ流ぬどろんの
そろんのまう二三十人本の流りけそるやまそ本ぬこいんりぶ部の雲有ぬ
あのぶ本ぬのぶ有ぬ雲ぬそちやうこあやうこ流ぬうんぶろくまんぶろくこ流ぬ
のけごこ部でく考変ぬの明ろ義の中に有とれ雲ん人ぬ雲ん
ぬもうあんぶろ雲墓人ろあんの男ろこれ石墓ぬ有て流ぶ浦ろ流ぶ
ぬ一こうぶる新ろくくこれて墓田のお有後ろのあぬとあり墓ろ軍雲ぶ
うけまぬ石墓武まの流ぶ有ぬ石とあ月の人義ぶ雲ぬて雲ろんぶ源代義代
のろうろあくまうろまぬて雲まぶまて雲ぬとけうくのうびとろんまあ
まそ流ぬのまうんぶくたころあるる月ぬろ入おたぶ杉流ぶ有ぬうろのぶひ
とあ月ぬろの流ぬ流ぬろんろと黒ぬのぶん

儀仙人感応日記まとこ三終